

# 脱炭素先行地域における主な取り組み

脱炭素先行地域づくり事業を通じて、中心市街地のカーボンニュートラルを目指して、次のような取り組みを官民連携によって進めていきます。

## 地域共生型太陽光発電導入と自然共生によるグリーン復興

- ▶ 鵜住居エリアに周辺の環境へ配慮した「地域共生型太陽光発電」を導入します
- ▶ 片岸公園を中心として、環境省の制度である「自然共生サイト」への認定を目指します



## 企業向けワークショップ施設の整備と国内外からの研修受入

(詳細は4ページ ㈱かまいしDMC)

- ▶ 企業研修の受入拠点となる施設に太陽光発電設備と薪ストーブを導入します
- ▶ 地域の脱炭素に向けた取り組みを広く発信します



## 小規模分散型太陽光発電、蓄電池の導入

(詳細は4ページ ㈱マリンエナジー)

- ▶ 中心市街地エリアの戸建住宅や事業所などへの太陽光発電設備および蓄電池導入を支援します

## 林福連携による木質バイオマスの熱利用、薪ストーブ導入

(詳細は5ページ 石村工業㈱×(一社)ゴジヨウ)

- ▶ 薪ストーブ導入支援と地域内の薪の活用を促進します

※木質バイオマス…木材に由来する再生可能エネルギー



## エネルギーの地産地消の仕組みづくり

- ▶ 地域共生型太陽光発電、岩手沿岸南部クリーンセンターのごみバイオマス発電など再生可能エネルギーを活用した地産地消の仕組みをつくりま



その他の取り組みは、市ホームページをご覧ください。



## 再生可能エネルギー地産地消の仕組み



# 貴重な自然環境を 未来に引き継ぐために 釜石が目指すゼロカーボンシティ

近年、全国各地で猛暑、大型台風、豪雨などの異常気象が発生しています。

この要因として、二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスの排出がもたらす地球温暖化が気候変動を引き起こすものと考えられていて、気候変動問題は、国際社会が一体となり取り組むべき重要な課題となっております。

令和2年10月、国は「2050年までに、二酸化炭素の排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル(脱炭素社会の実現)を目指す」ことを表明しました。

市は、海、山、川などの貴重な自然環境を未来の子どもたちに引き継いでいくため、市民一人一人が、今置かれている現状を把握し、危機感を持って行動するべく、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を令和3年10月に表明しました。今回の特集ではゼロカーボンシティに向けた当市の取り組みをご紹介します。

問い合わせ 市企業立地港湾課ゼロカーボンシティ推進室  
☎27-8423

## 脱炭素先行地域 釜石市

市はゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを加速するため、環境省の事業である脱炭素先行地域に民間事業者との共同提案(計画名:釜石版サステナブルツーリズムがつなぐ地域脱炭素プロジェクト)で応募し、令和6年9月に選定されています。

脱炭素先行地域とは、2030年度までに民生部門(家庭部門および業務その他部門)の電力消費に伴う二酸化炭素排出実質ゼロを実現するとともに、運輸部門や熱利用なども含めてその他の温室効果ガス排出削減を地域特性に応じて実現する地域で、全国で133市町村、102の提案が選定されています。



選定証授与式の様子



中心市街地エリアの指定範囲

計画では、電力需要量と再エネ供給量の規模が見合っていること、サステナブルツーリズムの拠点性を考慮した上で、住宅、宿泊施設、商業施設、公共施設などが集約されている中心市街地エリア(大渡町、大町、大只越町、只越町、天神町、港町、魚河岸、浜町、東前町、新浜町)と、再生可能エネルギーを供給する鵜住居エリア(片岸町の一部)を脱炭素先行地域の対象エリアとしています。

